



霊峰・劔岳

「富山署」富山県のシンボルと言えば立山。その立山連峰の首座をなすのが劔岳です。青黒くゴツゴツとした岩肌、鋭く切れ込む谷。その強烈な山容をアピールして美しいスカイラインを見せます。

劔岳は、古くから山岳信仰の山であり、「人間登るべからず」といわれ、前人未踏の山とされてきました。劔岳に記録上初めて登ったのは、明治四十年七月、柴崎測量官率いる陸地測量部の一行で、その時に頂上で錫杖頭と鉄剣が発見されず、修験者が登頂していたことが判明しました。劔岳は我が国の近代登山の発展の重要な舞台となり、アルピニストらが垂直の壁に挑む憧れの山となっており、すが、登山口に建つ「試練と憧れ」の塔がその厳しさを物語っています。

なお、劔岳山頂の「劔嶽社」は半世紀ぶりに建て替えられ、八月七日に正遷座祭が営まれました。

登山基地・馬場島

早月国有林から流れ出る立山川と白萩川の合流地点に馬場島があり劔岳の登山口として知られています。ここから仰ぐ劔岳はまるで覆い被さるように対峙し圧巻です。四季折々に変化する劔岳や早月川の清流などの景観は壮大で美しく、一帯には青少年旅行村や馬場島荘などが整備され、キャンプやハイキングに多くの人が訪れます。

また、馬場島荘には、早月国有林の治山事業を紹介した富山署のジオラマやパネルが展示され関心を集めています。

信仰が息づく霊場

大岩山日石寺 (上市町大岩)

日石寺は奈良朝末の神亀二年(七二五年)に、高僧行基によって開かれたといわれ、古くから真言密教の総本山として栄えてきました。本尊は凝灰岩の一枚岩に、右手に「降魔」の剣をとり、左手に「三昧」の罽索を持つ像高三メートル余の不動明王座像を中心に四体の像が半肉彫りで彫られた磨崖仏(国指定重文)で、中部地方における最高傑作として高い評価を得ています。

眼目山立山寺 (上市町眼目)

立山寺は曹洞宗大本山総持寺の二祖峨山禅師の高弟・大徹宗令禅師が建徳元年(二二七〇年)に開創した古刹で、越中大本山として多くの修行僧が座禅道場と

して歴史を重ねてきました。山門に連なる長い参道には、杉並木に続いて、天正年間に能登から苗木を取り寄せ植えたと言われる樹齢約四〇〇年、幹廻り三メートルの榎並木(県指定天然記念物)が一〇〇メートルほど立ち並び、長い歴史を偲ばせています。周辺は、哲学の道として遊歩道も整備され親しまれています。

◆アクセス

- 自動車
北陸自動車道立山インターから馬場島まで 約五十分
- 大岩山日石寺まで約十五分
- 眼目山立山寺まで約二十五分



馬場島から仰ぐ劔岳



立山寺の榎並木



日石寺の磨崖仏